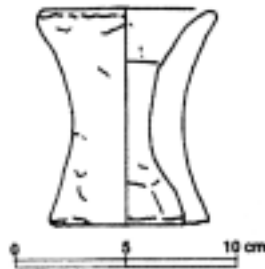


「能登式製塩土器における支脚と平底タイプについて  
- 石川県内の事例をもとに - 」

名田 草介

石川県内では27箇所の製塩遺跡から支脚が出土しているが、その遺跡の多くからはまた、平底タイプの製塩土器も出土している。先行研究により両者が同じ目的で使用されていたということは明らかにされているが、どのような組み合わせで使用されていたのかということは明らかにされていない。また、支脚の型式に関しても研究者の方によって見解が異なり、統一されてはいない。そこで本稿では、石川県内における事例をもとに支脚の型式分類を行い、それを伴出する平底タイプの型式と比較することで、県内における支脚と平底タイプの組み合わせのありようを解明することを目的とした。結果、能登式製塩土器を代表とする支脚と平底タイプの組み合わせが明らかとなり、また、遺跡相互の関係を調べることで、内浦地方と外浦地方では、支脚と平底タイプの型式、および組み合わせに差が生じることも判明した。以上がこの卒業論文の概要である。



支脚 式D類